



## 平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月14日

上場会社名 株式会社ジー・テイスト  
 コード番号 2694 URL <http://www.g-taste.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 杉本 英雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 稲角 好宣  
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 TEL 052-910-1729

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	12,614	3.5	87	44.2	170	9.1	129	
29年3月期第2四半期	13,065	3.4	156	51.9	156	54.1	105	

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 129百万円 ( %) 29年3月期第2四半期 105百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	0.68	
29年3月期第2四半期	0.55	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	21,303	9,772	45.7
29年3月期	21,396	9,993	46.6

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 9,743百万円 29年3月期 9,968百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.50	0.50
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,000	2.8	590	6.5	670	7.5	20		0.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	197,051,738 株	29年3月期	197,051,738 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	5,710,333 株	29年3月期	5,710,066 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	191,341,507 株	29年3月期2Q	191,342,138 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1.本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2.平成30年3月期の期末配当予想につきましては、事業環境の先行きが不透明であることから現時点では未定とし、業績等を総合勘案いたしました上で速やかに開示するものといたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境に改善が見られ、景気は緩やかな回復基調となりましたが、個人消費の回復は足踏み状況にあり、引き続き先行き不透明な状況となっております。

外食産業におきましては、人材不足による採用費等のコストの高騰や、消費者の節約志向・低価格志向の高まりなど、先行きは依然として厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社グループの外食事業においては、安心、安全でお客様にご満足頂ける商品提供への取り組み強化と併せ、ブランド力が高い業態への業態転換、新規出店やFC加盟開発の強化に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、既存店売上高の減少及び外食事業の店舗閉鎖による売上高の減少が影響し、売上高は126億14百万円（前年同期比3.5%減）、営業利益は87百万円（前年同期比44.2%減）となりました。経常利益は受取補償金等の計上により1億70百万円（前年同期比9.1%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は、法人税等調整額の計上に伴い1億29百万円（前年同期は親会社に帰属する四半期純損失1億5百万円）となりました。

セグメント概況につきましては、次のとおりであります。

なお、当社グループは従来、外食事業以外の事業の重要性が乏しいため、セグメント別に業績を説明しておりませんでした。前連結会計年度より「外食事業」と「教育事業」の2つを報告セグメントとして、セグメント情報を記載しております。

以下の前年同期比較については、前年同期の数値を当該報告セグメントの区分に基づき作成した数値で比較しております。

#### <外食事業>

外食事業の寿司業態では、QSCの徹底的な見直しを図り、改善の強化を進めてまいりました。また、7月には、今期2店舗目となる平禄寿司明石台店をリニューアルオープンいたしました。従来の平禄寿司から、オープンレーン仕様にし、解放感ある店内と石巻鮮魚、活貝の販売に力を入れ、よりお客様との距離が近い形で目の前で握る臨場感を楽しんでいただける店舗へと改装を行っております。加えて、SNSへの告知強化への取り組みとして、LINE@を積極的に広め、現在20,000人程のユーザー登録を頂くに至りました。この他に、創業50周年となる8月には、平禄寿司創業当時の価格の再現ということで、あじ、いわしを一皿50円にて販売をさせて頂き、11月1日、2日、3日にもマグロをメインとした創業50周年キャンペーンを実施するなど、今後もお得な情報を積極的に配信してまいります。

海鮮居酒屋業態では、旬の産地限定シリーズ第3弾として「車エビ・紫雲丹」を使ったフェア企画を行ってまいりました。また、繁華街立地の店舗で活アナゴの店頭ディスプレイや焼きさんまの店頭販売を実施し、浮遊客の入店を促す施策を実施しております。郊外のCafe店舗では、フワフワの食感が特徴のかき氷を販売し、好評を得ております。

その他の居酒屋業態では、「とりあえず吾平」では、夏のスタミナ料理としてお肉メインの挟み込みメニューを導入し、9月には、秋の味覚フェアとしてサンマなどのメニューを導入することで、来店客数の増加を目指してまいりました。「ちゃんこ江戸沢」業態では、ちゃんこ食べ放題、ハイボールフェアを実施し、来店客数の増加を目指してまいりました。

焼肉業態では、国産牛焼肉食べ放題「肉匠坂井」の出店を強化いたしました。肉匠坂井一宮尾西店が7月にオープンし直営店10店舗、肉匠坂井福知山店が9月にオープンし加盟店4店舗、当第2四半期連結会計期間末時点で14店舗の展開となりました。また、9月以降につきましても、10月に1店舗、11月に1店舗と出店をいたしましたが、更に当事業年度においては1店舗の出店を計画しております。引き続き、お客様にご満足頂けるよう、グランドメニューの改定及び定期的な季節メニュー等の販売を行い、客数増加を目指してまいります。

ファーストフード、レストラン業態では、新業態として炭焼きハンバーグおむらいす亭新瑞橋店にて、サラダバーを導入した結果、客数増・客単価増となり、売上前年比160%以上となりました。人件費率の軽減にも繋がり、収益改善に繋がっております。その結果を踏まえ、10月にオープンしたおむらいす亭イオンモール倉敷店も、好調な業績で推移をしております。またこの他、おむらいす亭全店で「手ごねハンバーグ」に変更し、ハンバーグ商品のアイテムを増やすことにより新規顧客獲得増となり、全体的な売上増に繋げることができました。

当第2四半期連結累計期間におきまして、外食事業では新規出店を2店舗（焼肉業態2店舗）及びフランチャイジーなどからの店舗買取り等による増加1店舗、フランチャイジーへの店舗売却等による減少3店舗、契約期間満了や不採算に伴い21店舗を閉店いたしました結果、外食直営店舗341店舗となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の外食事業における売上高は、116億13百万円（前年同期比4.0%減）、営業利益5億33百万円（前年同期比1.9%減）となりました。

#### <教育事業>

教育事業では、学習塾事業での「夏期講習」の取り組みに重点を置き、生徒成績向上と新規の生徒数獲得の販促を実施いたしました。英会話事業ではレベルアップコンテストの実施により、より高い上達サポートによる顧客満足の向上を図りました。当第2四半期連結累計期間においては、教育106校舎と変動はございませんでしたが、以上のような施策を図ってまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の教育事業における連結業績につきましては、売上高10億1百万円（前年同期比3.5%増）、営業利益81百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

### （2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産額は、213億3百万円となり、前連結会計年度末と比較し、93百万円減少いたしました。主な要因は、有形固定資産が増加する一方、投資その他の資産（その他）及び敷金及び保証金が減少したことによるものであります。

負債総額は、115億30百万円となり、前連結会計年度末と比較し、1億27百万円増加いたしました。主な要因は、買掛金が減少する一方、1年内返済予定の長期借入金及び流動負債（その他）が増加したことによるものであります。

純資産額は、97億72百万円となり、前連結会計年度末と比較し、2億20百万円減少いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び配当金の支払いによる利益剰余金の減少によるものであります。

### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想に関しては、本日別途公表いたしました「第2四半期業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,509,192	6,512,444
受取手形及び売掛金	369,096	372,983
商品及び製品	79,456	105,996
仕掛品	4,700	2,868
原材料及び貯蔵品	215,432	211,042
その他	1,003,976	981,767
貸倒引当金	△2,775	△2,323
流動資産合計	8,179,079	8,184,779
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,542,573	3,750,762
土地	4,241,205	4,208,471
その他(純額)	374,457	423,618
有形固定資産合計	8,158,236	8,382,852
無形固定資産		
のれん	45,085	34,836
その他	165,309	162,746
無形固定資産合計	210,395	197,583
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,979,982	3,829,139
その他	1,337,578	1,173,938
貸倒引当金	△469,040	△465,232
投資その他の資産合計	4,848,521	4,537,845
固定資産合計	13,217,153	13,118,280
資産合計	21,396,232	21,303,060
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	775,429	680,792
短期借入金	300,000	300,000
1年内返済予定の長期借入金	362,663	499,142
1年内償還予定の社債	708,000	708,000
未払法人税等	62,974	32,536
引当金	90,170	65,752
資産除去債務	16,269	55,047
その他	2,222,501	2,325,388
流動負債合計	4,538,008	4,666,659
固定負債		
社債	2,434,000	2,080,000
新株予約権付社債	1,983,058	1,985,920
長期借入金	996,242	1,370,932
退職給付に係る負債	36,752	35,976
資産除去債務	825,057	815,104
その他	590,017	576,203
固定負債合計	6,865,127	6,864,137
負債合計	11,403,135	11,530,797

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	8,842,326	8,842,326
利益剰余金	1,843,364	1,618,172
自己株式	△817,391	△817,411
株主資本合計	9,968,299	9,743,086
その他の包括利益累計額		
その他の包括利益累計額合計	-	-
新株予約権	24,797	29,176
純資産合計	9,993,097	9,772,262
負債純資産合計	21,396,232	21,303,060

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	13,065,240	12,614,369
売上原価	4,672,860	4,512,396
売上総利益	8,392,380	8,101,973
販売費及び一般管理費	8,235,399	8,014,427
営業利益	156,981	87,545
営業外収益		
受取利息	4,471	3,198
受取配当金	488	490
業務受託料	34,067	34,065
受取補償金	4,957	70,764
受取解約金	35,082	6,485
その他	25,898	29,847
営業外収益合計	104,966	144,852
営業外費用		
支払利息	13,806	15,674
貸倒引当金繰入額	43,315	57
支払手数料	30,001	30,127
その他	18,389	15,866
営業外費用合計	105,513	61,725
経常利益	156,434	170,672
特別利益		
固定資産売却益	-	6,871
新株予約権戻入益	-	902
特別利益合計	-	7,774
特別損失		
固定資産売却損	57	671
固定資産除却損	9,217	15,354
店舗閉鎖損失	24,181	28,463
店舗閉鎖損失引当金繰入額	3,180	24,922
減損損失	13,434	34,695
特別損失合計	50,071	104,107
税金等調整前四半期純利益	106,363	74,339
法人税、住民税及び事業税	33,516	32,337
法人税等調整額	178,587	171,523
法人税等合計	212,104	203,860
四半期純損失(△)	△105,741	△129,520
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△105,741	△129,520



## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純損失(△)	△105,741	△129,520
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	△105,741	△129,520
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△105,741	△129,520
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## （3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	106,363	74,339
減価償却費	252,904	240,775
のれん償却額	12,810	10,248
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△30,522	△17,886
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	49,924	△4,260
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△489	△776
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△1,377	△6,531
受取利息及び受取配当金	△4,960	△3,689
店舗閉鎖損失	24,181	28,463
減損損失	13,434	34,695
支払利息及び社債利息	13,806	15,674
固定資産除売却損益 (△は益)	9,274	9,153
売上債権の増減額 (△は増加)	59,274	△5,022
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△39,014	△20,318
仕入債務の増減額 (△は減少)	△96,943	△94,636
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△26,062	△24,736
未収消費税等の増減額 (△は増加)	8,118	△10,503
その他	△116,222	258,233
小計	234,500	483,224
利息及び配当金の受取額	3,030	2,141
利息の支払額	△11,153	△12,314
法人税等の支払額	△66,223	△62,775
営業活動によるキャッシュ・フロー	160,154	410,275
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△365,295	△520,320
有形固定資産の売却による収入	1,051	36,902
資産除去債務の履行による支出	△21,212	△26,046
非連結子会社株式の取得による支出	△34,500	-
敷金及び保証金の差入による支出	△37,379	△35,099
敷金及び保証金の回収による収入	45,548	109,371
貸付けによる支出	△500	△30,000
貸付金の回収による収入	65,386	476
その他	△1,626	△2,319
投資活動によるキャッシュ・フロー	△348,527	△467,035
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
関係会社短期借入金の純増減額 (△は減少)	△708,142	-
短期借入金の純増減額 (△は減少)	50,000	-
長期借入れによる収入	-	700,000
長期借入金の返済による支出	△149,798	△188,831
社債の償還による支出	△239,000	△354,000
リース債務の返済による支出	△1,355	△1,310
自己株式の取得による支出	△7	△20
配当金の支払額	△81,947	△95,567
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,130,250	60,270

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△619	△259
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,319,243	3,251
現金及び現金同等物の期首残高	5,384,624	6,509,192
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,065,381	6,512,444

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。